

西成医療生協 2010年度 熱中症調査の取り組み

西成医療生活協同組合
西成民主診療所
杉浦 健

はじめに

- 09年度、組合員増やし 年間目標400名達成
- 大正医療生協をお手本に「お誕生日訪問」を全支部で取り組み、地域訪問が盛んに！
- 10年度、木津川地域4法人合併に向け、【1口増資大運動】に取り組む。
1口増資大運動とは...「他法人は1口2000円。西成1口1000円。合併までに全ての組合員さんに2000円以上の出資をしてもらう増資大運動。」
- モーニング班会などたまり場づくりが盛ん。

熱中症調査を取り組むにあたり...

7月の理事会での議論

- 地域訪問が定着している支部活動
その中で、運営委員・組合員中心の熱中症調査ができないか？
- 運営委員会で提起することは難しい
まずは、理事が職員と共に熱中症調査に取り組み、運営委員会で提起すべき！

調査方法

- 各事業所で、最低 10 名の調査対象者をピックアップする。
（西成民主診療所は、独居・生活保護受給者を中心に選定）
- 組合員活動部にリストを提出。
- 事業所を問わず、各支部担当地域ごとに対象者を分け、支部担当職員・担当理事とセットを組む

訪問結果

- 7月26日～8月8日
- 理事同行での訪問件数 20件
- 事業所訪問数 24件



事例紹介

- 7月30日(金) 14時訪問 室温 33℃
- 79歳 女性 独居・生活保護受給
- 主病名 認知症 デイケア・訪問介護を利用
- 家に人を入れる事を拒む(ヘルパーさんも)。
- 調査を断られるが、「私だけやったらええやる!」と理事さんが家の中に。職員は炎天下待機
- 「クーラーも扇風機もない。あれは危ない。」
- 「デイ増やし!ヘルパー断わったら私に声かけ!」

理事さんへの影響

- 「窓あけたら、隣の室外機から熱風入ってくる。」
- 「区役所、暑い。待合のイスこの時期、片付けとるんやで！」
- 「これは災害とおんなじや。行政に交渉や」



西成区長と懇談



- 高齢者への熱中症の緊急対策を求める要望書」を提出
 - ① 熱中症予防の注意喚起・警報活動の強化
 - ② 住民の実態把握。高齢者の安否確認や見守り・予防策の充実
 - ③ 行政が主導して区民センター等冷房設備のある公共施設を開放する緊急避難的措置
- 対応した区長「確かに異常な酷暑で大変な事態。要望には何らかのかたちで回答する。」と応答。

学び（職員への影響）

- 具体的な対策を行ったところに特徴。
デイケア・待合室を避暑地に。
- 来ていただく（きっかけ作り）
パチンコ大好き？
将棋ボランティア
我が家の様に干渉しない。
- 生活を見る視点
中断・気になる患者訪問を暑い時期に。
- 患者さんが孤独死されていた事例も。



まとめと課題

- 理事が参加し、地域の実態を行政へ。
生活実態を掴んだ理事さんの力はすごい！
- 地域訪問をもう一步、生活の場に足を踏み入れる訪問活動に発展させるきっかけに。
継続した「命の大運動」へ広げる。
- 患者さんの生活を知り、具体的な対策が取れた。
事務職員が率先して他職種とのコーディネーターとなり、提案できる力量をつけることが必要。